

## うめくさ-4

雑草を含む植物の、地域における情報を入手するには地域の植物研究会や同好会が頼りになる。研究会は普通、都道府県単位に組織されているが、全国を対象にしたものから、「近畿植物同好会」のような地域単位のもの、「大牟田生物愛好会」のような市町村単位のものまであって、その多くは活発に活動している。こうした会から発信される莫大な量にのぼる情報は貴重であるが、その場所からはずれると極めて入手困難という性格を持っている。

北海道では、故原 松次先生のご尽力で1985年6月に北海道植物友の会が結成され、江戸時代の蘭学者宇田川榕庵の植物学の著作「菩多尼訶（ポタニカ）」を会誌（図-1）の名前として活動してきた。ところが、北海道にはそこから約50年前にも北海道植物研究会が組織され、「蝦夷雑記」という会報が発行された。「北海道

## 「蝦夷雑記」の周辺

植物研究会」については、北海道大学名誉教授の伊藤浩司先生が「・・・“蝦夷雑記”というのは昭和13年頃作られた北海道植物研究会の会誌の名前である。この会そのものの記録はない。手元にガリ版刷りの“蝦夷雑記”第1号、皇紀二千五百九十八年、昭和13年12月発行号が1冊あるのみである。編集者は館脇 操博士。・・・（蝦夷雑記について、北海道の自然と生物7、1993）」という紹介記事を書いておられる。館脇先生は伊藤先生の前任教授であった。

「蝦夷雑記 第1号」以外の北海道植物研究会の記録として、入会案内、創会趣旨および会則が残されているので以下に示す（一部字体を変更）。すべて謄写版で、この他に「投稿規約」があるが、これは「蝦夷雑記 第1号（図-2-a）」に綴じ込まれているのでここでは省略した。

拝啓 朝夕は猶寒気厳しくはございますが日中の日差しは何となく軟らかく春の気配を漂はせて参りました。御尊堂様には愈御清栄のことと存じます。

さて此の度別紙の創会趣旨及び会則に基づき北海道植物研究会なるものを組織したいと存じますので会員として御入会相成度御勧誘申し上げます。御賛成下さいますなら別紙入会申込書に夫々御記入の上庶務幹事迄御差出を願ひます。先は右御勧誘申上げて御入会を希望致す次第でございます。

昭和十二年三月二十日  
発起人一同

〇〇 〇殿

## 創会趣旨

北海道十一州の蝦夷地、廣袤八万八千方軒は我々が生を享ける恵の地である。それは自然の植物に飾られた無限の楽しさと尊さを持つ地である。この郷土、恵の地北海道の植物に興味を持つ人々が相互に研究し合ふ機会と便宜の得られることを我々は如何に待望したことであらうか。時恰も昭和十一年中秋 聖上陛下は我らの郷土、北海道に行幸遊ばされ給ふ。又更に北大名誉教授宮部金吾博士は新年御講書初御奉仕を仰付けられ、生物学者として最初の最高名誉を担はれたのである。此の行幸と栄誉を機縁とし記念奉って郷土植物同好の人士を糾合し斯道の權威を戴いて採集会、座談会、印刷物、標本交換、寄贈等によって本道の植物を研究し、教育的植物教材を検討するの趣旨を以て此処に北海道植物研究会を創設せんものと思立つに到ったのである。さうして甚だ幸いにも北大農学部宮部博士及び道庁学務課長山本章一氏は顧問として又同大学農学部館脇博士は会長に理学部講師秋山茂雄氏は幹事長として夫々雑誌編輯に採集会指導に俱々御多忙其の極中にも関わらず御承諾を戴けたのは此の上も無い歓喜と心強さであって、此の御厚誼に対し全く感佩措く能はざる次第である。願はくば郷土植物愛好の士、本会の目的達成のために御協力あらんことを。

## 会 則

- 第一條 本会は北海道植物研究会と称す。
- 第二條 本会は会員相互的に郷土植物を研究し、併せて教育的植物教材の検討を行ふを以て目的とす。
- 第三條 本会会員たらんと欲する者は幹事一名と会員一名の紹介を以て住所、勤務先、職業、氏名を記して本会庶務幹事のもとに差出すべし。
- 第四條 本会には次の役員を置く。
- |     |           |
|-----|-----------|
| 会長  | 一名        |
| 顧問  | 若干名       |
| 幹事長 | 一名        |
| 幹事  | 三名        |
|     | 雑誌編輯幹事 一名 |
|     | 庶務幹事 一名   |
|     | 会計幹事 一名   |
- 本会会長及び顧問は会員の推挙によりて決定し他の役員は本会会員中より会長之を指名し事故なき限り留任するものとする。
- 第五條 本会会員は申込と同時に金壹円を会計幹事に納入し、爾後翌年より一月中に年額壹円の会費を前納するものとする。
- 第六條 本会は第二條の目的を達する為次の諸事業を行ふ。
- 第一項 植物採集会  
希望会員相約して随時採集会を開催す。顧問、会長、及び幹事長の地方出張の際は成る可く出張先にて日曜日に行ひ庶務幹事より案内状を発送す。
- 第二項 野外植物座談会  
第一項に附随して行ふ。
- 第三項 会誌「蝦夷雑記」を発行す。
- 雑誌は五月、十一月の二回に於て発行し会員外の購入希望者へは一部五十銭（送料共）にて販売するを以て発行前月までに会計幹事に送金して申込むものとする。
  - 当分謄写刷とす。
  - 会員は投稿することを得、但し其の掲載及び掲載の前後順序等は編輯幹事に一任し、掲載せざるものは庶務幹事より返送するものとする。
  - 会員外と雖も会員一名の紹介を以て投稿することを得。
  - 原稿は編輯幹事宛に送付するものとする。
  - 原稿は投稿規約を守るものとする。
  - 編輯幹事は幹事長と共に原稿を纏めて庶務幹事に廻送し、庶務幹事は之を謄写後夫々に発送し、其の費用を会計幹事に請求するものとする。
- 第七條 本会会員にして退会せんとする者は其の旨を庶務幹事に届出づべし。但し一旦前納せる会費は返還せず。
- 第八條 本会は時に応じて総会を開くことあるべし。
- 第九條 本会に関する経費出納は年末会誌を通して会計幹事之を発表するものとする。

## 本会役員

|     |         |                 |
|-----|---------|-----------------|
| 顧 問 | 宮部金吾 先生 | 北海道帝国大学農学部植物学教室 |
|     | 山本章一 氏  | 北海道庁学務部学務課      |
| 会 長 | 館脇 操    | 北海道帝国大学農学部植物学教室 |
| 幹事長 | 秋山茂雄    | 北海道帝国大学理学部植物学教室 |
| 幹 事 | 雑誌編輯    | 館脇 操            |
|     | 庶 務     | 岩本秀信 旭川師範学校     |
|     | 会 計     | 井上藤二 札幌第一中学校    |

これらの文書を見ると、この研究会は「北海道植物学会」の陣容を備えていたと言えよう。

伊藤浩司先生は上記の記事の中で、「蝦夷雑記 第1号」に札幌第一中学校（現在の札幌南高等学校）の井上藤二先生が寄稿された「札幌を中心とした植物採集」の記事を転載された。この記事の中には「白石村鉄道付近にはキミカゲソウ、北側水田の一部にはコナギが群生している。」と書かれている。ミズアオイの誤認である可能性もあるが（図-3）、北海道でのコナギの記録としては、「函館植物誌（山本岩亀・塚本角次郎、1932）」とともに古い。

会則では年2冊の刊行とされた「蝦夷雑記」であったが、第2号は遅れて昭和16(1941)年5月に発行された（図-2-b）。収録記事は、北海道のフロラに就て（二）：宮部金吾、北日本の植物地理に就て（二）：故工藤祐舜、平野孝

二訳、東部北海道の櫻：室田豊治、樺太散頃地方の植物：吉村文五郎、ハゴロモエゾニハトコを見てくるの記：高橋義士、採集餘滴：岩本秀信、雑記、人名簿、である。「雑記」では、第3号の原稿が募集されたが、第3号が発行されたか否かは不詳。この時代、1941年12月に日本は太平洋戦争に突入しており、諸般の社会情勢の中で研究会の運営は極めて困難であったと思われる。

原 松次先生のお名前は第1、2号の会員名簿に記載されているので、かつて「北海道植物研究会と蝦夷雑記」について手紙でお尋ねしたことがあるが、「全く記憶にない。」とのご返事であった。

忘れられてしまった地域の研究会活動とそこから発信された植物・雑草情報が他にもあちこちにあるのではないだろうか。（も）

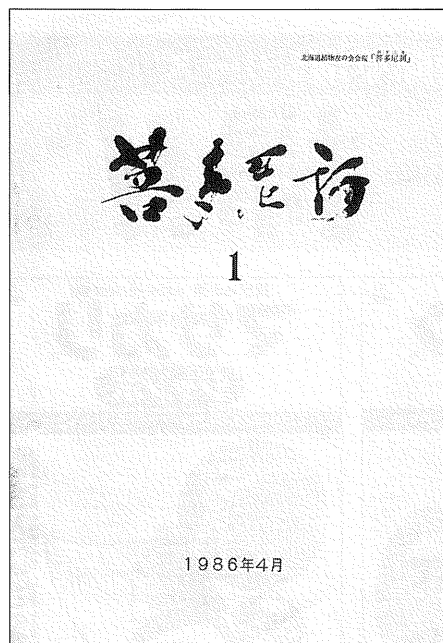


図-1 現在の北海道植物友の会会報「菩多尼訶（ボタニカ）」創刊号の表

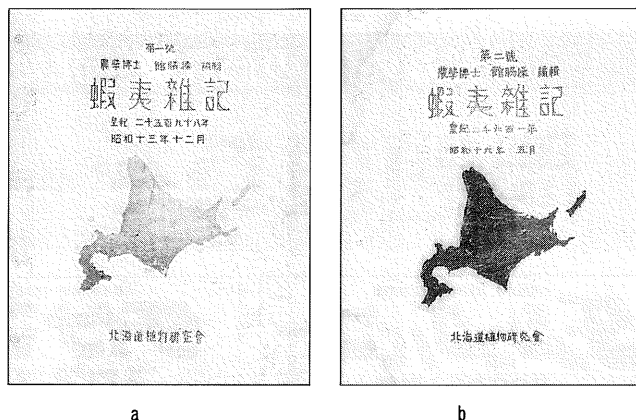


図-2 北海道植物研究会の会誌「蝦夷雑記」1号(a), 2号(b)の表紙

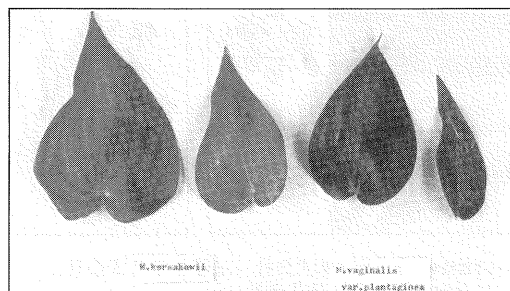


図-3 コナギ（右）とミズアオイ（左）の葉